

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

「子どもの元気は校区の力、地域の力。育てよう地域の輪・話・和」
子どもたちと活動を進めながら地域、学校が協働する事で、多様な世代の地域住民との絆が繋がっていくようにする。安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。
顔が見える地域・声が掛け合える地域をめざし、それぞれの防犯防災の意識を高める。

10月24日「つるし柿を作ろう！」ワークショップを二名中学校で開催しました。

二名小学校・青和小学校の児童や親子が、天候に恵まれ屋内・外でコロナ感染対策をとりながら作業ができました。

柿の実採取 中学校内の「法蓮坊」のしぶ柿が成長しました。

柿の実を高枝切りばさみ等を使って採りました。

体験 ピーラーを使い実の皮を剥いたり、つるしたり、地域のしぶ柿をつるし柿体験を通して五感で感じることができました。



また、地域の活動を知ってもらい、手作りの紙芝居を使って昔から生活の中に取り入れられてきた柿渋の働きについて 楽しく参加者と学ぶ機会になりました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染対策のため緊急事態宣言が出されたり、活動は例年とは全く違う年でした。その中で三密（密閉・密集・密接）を避け感染対策をしておいた活動となりました。人との関わりや交流を目的とした事業を感染対策と共にいかに開催できるかと検討に時間をかけ、活動内容を精査し、ひとつひとつ確認しながらすすめてきました。「つるし柿のワークショップ」も屋内・外で人数制限し、換気・消毒等しながらの開催となりました。

また、学習・授業・行事支援等でも学校園と話し合いをし、支援する側、される側も感染対策に留意する一年間でした。

【来年度に向けて】

未だ新型コロナ感染が終息しない状況では今年度同様に感染対策をしながら事業をすすめることとなります。今年度検討してきた事が来年度活かせるように活動を協議会で考えていきたいです。新しい生活様式で、今までは使ってなかったタブレットやオンライン等新しい道具も活動に取り入れることも考慮し、できることを考えていきたいです。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域に学んだことを誇れる子ども

取組目標

多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

令和2年7月に2年生、12月に1年生が、地域やPTAの方々と共に、花植えを行いました。7月の2年生は、主にマリーゴールドを、12月の1年生は、主にパンジーを植えました。これは、毎年、行っている地域行事ですが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のことがあったため、事前に、地域コーディネーターの方々と何度も、電話等で打合せをさせていただきました。

最優先で考えたのは、現在の生徒にとっては、人生でたった1度の中学校生活ですから、一律に全てを停止するのではなく、大人が知恵を出し合い、工夫する中で、できることを行っていこうということでした。そのため、例年の倍の人数の地域の方々やPTAの方々に、ご協力いただきました。屋外で、花植えなどの作業するスペースを広くとり、作業前後の手洗いや消毒を徹底しました。他にも、使用する道具の消毒も、こまめに行い、一番経験させてあげたい花を実際に植えること以外は、当日の作業が短時間で終わるように、前もって準備を行い、生徒の動きが一方向になるようにシミュレーションも行いました。

ピンチはチャンスという言葉がありますが、生徒を思う多くの地域の方々の思いが伝わり、生徒にとって心に残る1日になりました。毎日の登下校時、今年もきれいな花が咲いている環境を整えられました。



【今年度のまとめ】

上述のように、厳しい環境だからこそ、私たち大人が試されている1年であることを痛感した1年でした。命に関わる内容ですから、当然、感染は防がなくてはいけません。しかし、そのことばかりに、とらわれては、何もできません。生徒にとっては、たった1度の中学校生活、与えられた環境で何ができるかを全力で考え、知恵を出し合う、そんな1年でした。

地域の方と共に行った花植え、生徒との接触を防ぎながらの図書室の整理、事業の前の消毒・手洗いの徹底、活動場所の清掃やカーテンのクリーニング、短時間・少人数での会議、接触を減らすための郵送の活用など、想定できる全ての手を打ちました。お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

【来年度に向けて】

現在の新型コロナウイルス感染拡大防止の取組と並行して、いかに行事を行っていくか。これまでの本校の地域の方々と共につくりあげた良き伝統を、どのように継承していくか。奈良市からの予算に頼らずに、どのように事業を継続していくか、課題は山積していると思います。しかし、これからも、今年のような地域の方との協力タッグで、乗り越えていくことができればと思っています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々と元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

社会全体に新型コロナウイルス感染症の影響があり続ける中、どのように活動を実施すればよいか、どのような活動が実施可能かを、学校が再開される前から地域コーディネーターとともに思案しました。そして、学校再開以降、感染の危険性や参加者の不安等を少しでも拭える工夫をコーディネーターと確認し合いながら、出来ることから、出来る範囲で活動を進めました。



ほとんどの体験学習事業を中止せざるをえなかった中、学校再開して間もない時期に、ゲストティーチャーによる「3年生の理科体験学習（オオムラサキ）」をリモートで実施できたことは非常にうれしいことでした。オオムラサキの生態や飼育について学び、実際に幼虫を育てて羽化させる体験をします。産卵の時期があるので延期することはできません。子ども達の体験してみたいという思いとゲストティーチャーの伝えたいという思い、そしてその思いを実現させようとするコーディネーターさんや先生方の努力があって実現しました。それを実現させる手立てとして、ゲストティーチャーは理科室から G Suite for Education の Meet を利用し、子ども達は各教室の大型モニターで授業を受けるというリモートで行いました。「学びを止めない」素晴らしい事業となりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、地域安心安全事業の見守り活動も、出来る範囲でと言いながら地域の交通ボランティアの方々の熱い想いで例年通り活動できました。また、家庭科等における学習支援や、図書ボランティアとの図書環境整備事業なども、コーディネーターさんやボランティアさんの熱い想いと努力により活動することが出来ました。学校・保護者・地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。」という理念を大切にしながら、これまで築き上げてきたことを可能な限り継続させることができました。

【来年度に向けて】

目指すべき「地域としての学校像」をしっかりと共有し、学校と地域が協働して、本校の「目指す子ども像」「取組目標」をより高いレベルで具体化できるように努めたいと思います。コロナ禍であっても内容や取り組み方の改善を図って継続可能な事業にしていきたいと思います。

めざす子ども像

人との出会いを通して、 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する
地域の人との関わりを通して、自分のできに気づき、行動する

【今年度の取組紹介】

□コロナ禍における地域と共に行う活動

二名小学校では、地域ボランティアの方に教育活動を支えていただいたり、多くの学年で地域人材をお迎えしての授業を行ったりしています。しかし今年度は、コロナ禍でほとんどの活動が例年通りにはできませんでした。その中でも、「子どもたちのために」という思いで、「できることを、できるかたちで」実施してきました。

□地域の方と共に行う活動

環境整備事業の一環として、花壇に花苗を植えました。下校の見守り活動をしてくださるみなさんと植え付け作業を行いました。また、花いっぱい運動で、地域の方と共に花苗とチューリップの球根を植えました。地域の方とのつながりをスタートとして、児童が継続的に世話をするといった形で地域とのつながりを感じる活動となっています。

□図書ボランティア「としょぼ」の活動の工夫

「としょぼ」は、年間を通じて図書館の環境を整えたり読み聞かせをしたりしてくださっています。児童と共に活動したかったのですが、新型コロナウイルス感染症に配慮し、環境整備については、児童のいない放課後や長期休業中に行い、毎日の活動は図書委員が引き継ぎ図書室をきれいに保っています。読み聞かせについては、全校での視聴や国語の指導での活用が可能になるようにと、音響効果も入れて読み聞かせ動画を作成してくださいました。



左：花苗の植え付け作業

右：読み聞かせ動画の視聴

【今年度のまとめ】

これまで、地域の方と共に活動することを大切にしてきましたが、今年度はコロナ禍で、多くができなくなってしまいました。その中でも学校の感染症対策の取組に御理解くださり、様々な御協力・御支援いただきました。中止という選択をする場面が多くなってしまいましたが、みんなで知恵を出し合い、地域と児童がつながる活動を形にしていきたいと思います。

【来年度に向けて】

今年度は、例年通りに実施することができず、多くの活動が中止となりました。学年単位等で地域の方と活動する場面が多かったので、実施方法を検討していきたいと思います。また、学校の様子を地域に発信するとともに、地域の方との活動を児童や保護者に発信するツールとして、正門前に掲示板を設置し、活用していくことを予定しています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、**地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標

地域の方々との関わりを通して、子どもたちの興味・関心を湧きたてるような体験活動の実施**【今年度の取組紹介】**

(サッカーで遊ぼう)

ゲストティーチャーの指導の下、4歳児・5歳児に分かれて、前半はボールを使った簡単なゲームや投げたり転がしたりボールに触れることからはじまりました。後半はチームに分かれゲームをしました。必死でボールを追いかけてゴールした時の嬉しそうな笑顔。徐々にボールの扱い方が上手くなり、遊びの中でも「今日、サッカーしよう。」と友達と誘い合って遊ぶ姿が見られるようになりました。『サッカーで遊ぼう』を通して、最後まであきらめず、継続して取り組む大切さや、意欲的に体を動かして遊ぶ楽しさを知ることができました。



(英語で遊ぼう)

日常の挨拶や色、動物などを英語ではどのように表現するのかを、リズムに合わせて体を動かしたり、絵カードを使ったりして分かりやすく教えていただきました。回を重ねるにつれ「〇〇はなんていうの。」と聞くなど意欲的に参加する姿が多くみられるようになりました。英語に触れたことで、普段使っている言葉とは違う言葉があることを知り、日本以外の国に関心を持つきっかけになりました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は例年通りに事業に取り組むことは難しい状態でした。コロナ禍での事業の見直しをし、密を避けるなどの感染対策を行い進めてきました。そのような中でも地域の方々や保護者に協力していただき、一緒に園内の環境整備を行うなど様々な体験をすることができました。お花を楽しもうでは、子どもたちが思い思いに生けた花を「きれいにできましたね。」「いいですね。」と一人一人認めていただきました。活動を継続することで楽しさが増し、「楽しかったね。」「もっとやってみたい。」と意欲や自信につながりました。地域の方々に温かい言葉をかけていただき思いやりや感謝の気持ちを持つことができました。

【来年度に向けて】

地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方や家庭との信頼関係がより一層深まるように継続して事業を進めていきたいと思います。

また、各取組で学んだことや感動体験を、日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思います。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域とともに生きぬく子どもの育成

【今年度の取組紹介】

<体験活動「お米をつくろう」>

昨年度から継続している活動ですが、コロナ禍の中、地域の方と触れ合うことができず、今年度は、子どもたちの降園後、‘お米の先生’が田んぼの土と苗を運んで来てくださり、その様子や苗の植え方のお話を、職員が動画に撮り、次の日、子どもたちが視聴しました。そして自分たちだけで田植えをし、水の管理をしながら生長を見守りました。お米の先生と園とのラインでのやり取りを手紙として子どもたちに知らせ、つながっている気持ちを大事に積み重ねました。お米の先生は、時々お米の生長を見に来てくださり、テニスボールで粳すりができることも教えていただきました。自分たちで、稲刈り、稲架掛け、脱穀、粳すりをして、やっとできたお米を今年度は全園児で給食時に食しました。「おいしい」「5歳さんありがとう」「プチプチしている」「お礼の手紙を書きたい」と声が出て、みんなでお米の先生に手紙を書いて送りました。お米の先生と直接かかわることはできませんでしたが、気持ちはつながり、収穫を喜び合うことができました。



【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを避けるために、地域のコーディネーターの方やボランティアの方と話し合い、工夫しながら例年とは異なる方法で取り組んできました。「お米をつくろう」「民生さんと遊ぼう」の活動のように録画したものを視聴したり、「柿渋染め」「お話広場」などでは、地域の方と少し距離をとりながら活動をしたりすることで、今年度も豊かな体験や学びにつなげることができました。また、地域の方の優しさを感じ、親しみ、感謝する気持ちをもつことができました。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中でも地域の教育力を活かした教育・保育内容を工夫し、園運営をすすめていきたいと考えます。また、子どもたちや保護者にも地域の方々に見守られていることを発信しながら、地域の方々の優しさを感じたり、地域を知り、好きになったりできるように、様々な体験活動の充実を図っていけるよう努めていきたいです。